

中村大三郎画塾『塾誌』について—翻刻と解題— 二 Transcript (2) : The Journal of NAKAMURA Daizaburo's Private Painting School

福田 道宏

FUKUDA Michihiro

奥村 一郎

OKUMURA Ichiro

高村 佳子

TAKAMURA Keiko

キーワード…中村大三郎、日本画、画塾、京都画壇

解題—戦時下の塾展開催について—

本稿で翻刻紹介する中村大三郎画塾『塾誌』（中村実氏所蔵「中村大三郎画塾関係資料」のうち）については、本誌前号¹でその書誌的な部分を中心に概要に触れた。そこで述べたように現状では錯簡・落丁があり、翻刻のうえ、復元して掲載している。なお、前号で示した復元案ではKとOとの間に落丁があると述べたが、Oの冒頭は月日不明で続いて一九四四年（昭和一九）と考えられる十二月七日の記事が現われるので、Kの末尾十二月六日から連続するものと考えて不自然ではないので訂正したい。

今回翻刻するのは一九四三年一月から四四年十二月までの二年間である。先述の記号で示すとJの途中からF、H、G、I、D、E、K、Oの途中までである。その間、四三年一月の途中からの約四箇月分が欠落している。具体的にはFは一月六日の記事が恐らく途中で終わっており、続くHの冒頭は月日不明の記事の途中からで、次が五月九日の研究会の記事のため、月日不明の分は四月頃だろう。一月六日の研究会で塾員に配布されたものと考えら

れる、「昭和十八年度中村大三郎画塾本年度事業予定」など別紙三枚がFに綴じ込まれており、その事業予定によれば、四月の行事は「下旬」を予定している写生会と役員会であり、大三郎への報告と、大三郎からの口頭での指示が書き留められているため、四月の役員会の記事かもしれない。

今回の翻刻掲載期間で注目されるのは、戦時下における塾展開催である。奥村・福田「中村大三郎画塾の研究」²でも述べたとおり、中村大三郎画塾では三三年以降、塾展をたびたび開催したが、大規模な塾展四回と、それとは区別し、試作展・小品展など塾の側では通算回数に含まないと意識していた展覧会七回があった。すなわち、三三年の「中村大三郎画塾創立第一回展覧会」のあと、三八年の「中村大三郎画塾第二回展覧会」までの間に三七年・三八年に二度の試作展を開く。三九年の「中村大三郎画塾創立七周年記念展覧会」が第三回の塾展で第二回と第三回の間に二度の小品展を開いた。四〇年の「紀元二千六百年奉祝中村大三郎画塾展覧会」が第四回の塾展であり、それ以降は時局の影響も受け、通算で数えるような大規模な塾展は開くことができなかった。代わって開かれ

たのが、時局に合わせ、主に献納を主な目的とした展覧会である。第四回塾展後の四〇年十月には「中村大三郎画塾献納御聖蹟及び伝説地作品展覧会」が、紀元二千六百年奉祝会の主催で東京で開かれたが、これは塾の関与は薄く、塾展と呼ぶべきか迷うところだが、今回の翻刻掲載期間中に企画、準備が進められ、開催された四三年八月の「中村大三郎画塾寄贈 産業戦士感謝激励日本画巡回展」と、同じく企画準備が進められ、次回掲載予定の期間に開催されることになる四五年度の「大東亜戦争必勝祈願 神宮・官弊社奉献日本画展」については、『塾誌』の記事により、塾の側からの働きかけにより開催されたことが明らかである。

前者について、具体的に見ると、四三年正月早々、一月六日に開かれた研究会の席上で話し合いが行われ、「二、三月の塾献納作品は本年中の研究会中に完成、持参する事に決定す（献納画寸法、縦横自由、縦一尺六寸、横一尺七寸、枠付久山氏に一任、塾より四十枚注文し、一枚分四円五十銭は二月の研究会に会計へ、他の一枚分は一時塾予備金より一時立替へ、後日都合着次第、会計へ支払ふ事）」との記事がある。同日配布されたと思われる「昭和十八年度中村大三郎画塾本年度事業予定」の三月の箇所にも「塾献納作品準備」があり、そこに記された「塾本年度方針」として挙がる三つの方針の第一「献画報国ノ実践」の具体化のひとつである。ただ、『塾誌』が先述のとおり、この一月六日条のあと四月頃まで落丁があるため、その間の経過がわからない。

その後、五月の研究会に献納作品を持ち寄ることになり、五月九日の研究会で一部作品が持ち込まれ、中村大三郎の指導を受けた。また、統



図1 産業戦士感謝激励日本画巡回展会場入口

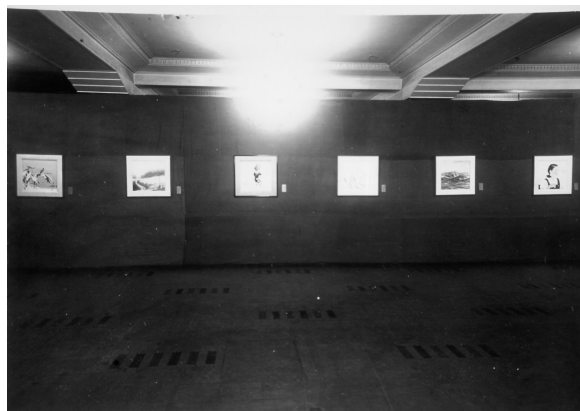


図2 産業戦士感謝激励日本画巡回展会場



図3 産業戦士感謝激励日本画巡回展で久邇宮静子妃を案内する中村大三郎

一の化粧枠の制作や誰が何点出品するかといった点についても詳細が詰められていく。五月二十八日条には、「先日大政翼賛会文化部長高橋氏に先生が御面接になり、今回企てたる塾献納画に付、御話ありたる処、万事御世話を願ふ事になり」とあり、この日、高橋氏の大三郎邸訪問に合わせ、出来る限りたくさん作品を見せておきたいという大三郎の指示で、急遽作品を各自、大三郎邸に搬入した。その後、七月五日になってお披露目の展覧会は九月上旬に大丸京都店で翼賛会との共催で一般に公開されることが決まり、同月二十七日、塾幹事と大丸との話し合いで会期は「第一案 八月卅一日より九月五日迄、第二案 八月廿四日より八月廿九日迄、第三案 九月七日より九月十二日迄」となった。結局、第一案と決まったようで、「通知（昭和十八年八月）」によってその前後の詳しい日程が塾員に示され、八月三十日条には陳列が行われた。続いて、

八月卅一日～九月五日

開期中の記事、其他明細は別冊。内示展記録に有り。

この記事があるが、ここにいる「内示展記録」の現存は確認できない。ただし、中村実氏所蔵「中村大三郎画塾関係資料」には冊子に綴じたも

の以外にもバラの写真も含まれており、うち三枚が「中村大三郎画塾寄贈 産業戦士感謝激励日本画巡回展」のものと考えられる(図1・2・3)。戦時下において、画家たちが画業を継げるには多くの困難と障壁、制約があった。発表の場も減り、画材など物資の統制もあり、何より、自身が召集により出征したり、勤労奉仕に動員されたりもした。そんななか、大政翼賛会との共催で展覧会を開くという行為、或いは「報国」の一環として、軍や軍関係の産業に作品を寄贈するという行為は、今日から見ると「戦争協力」にしか見えないかもしれない。ただ、この『塾誌』を通じて見えてくる中村大三郎の姿は、自身の画塾の弟子たちに、制作と発表の機会を与えるべく、諸方面に働きかけて塾展を開催しようとする教育者としての姿であるように思う。

(福田道宏)

注

- 1 『広島女学院大学国際教養学部紀要』第2号、二〇一五年、九〇(一)～五五(三六)頁。
- 2 『美術フォーラム21』一六号、二〇〇七年、一一四～一二八頁。

凡例

- 一、かな遣い等は原文のままとしたが、旧字等は現在通用のものに改め、句読点を補った。また、誤字・当て字や、意味の取りづらい個所については、当該個所の右傍に「」内に正しい字やふりがなを補った。
- 二、現状の錯簡と考えられる部分は、前号所載の別表の復元案に従い、入れ替えて掲載した。その際、前号掲載の翻刻と同様、一続きと思われるかたまりごとにA～Oの記号を振り、その冒頭に【】で括ってその記号も挿入した。
- 三、不適当と思われる表現も、当時の時代状況を考える上で貴重なものと考え、原文のままとした。

翻刻 —一九四三年から一九四四年—

丁、前号からのつづき

昭和十八年一月元旦

鍛冶・加藤同道、西山先生・堂本先生・道太郎先生御宅へ年始の挨拶に参上。午後一時、塾員一同、先生御宅集合。国民儀礼・国歌斉唱。先生の御発声にて万歳三唱、乾杯。例年の如く寄書す。

尚、別に扇面へ福岡君へ「必勝」、石田君へ玉の御揮毫を賜り、塾員各々署名す。午後四時、敬会、玉の扇面、早速、石田君宅発送。鍛冶・加藤同道にて福岡君宅へ扇面持参の上、挨拶す。

当日出席者 室田、小野、野々内、松井、村上、鍛冶、上田、川島、中本、加藤、以上十一名

一月四日 先生御尊父三回忌

午前十時、鍛冶、加藤、上田、三条大橋集合、墓【F】参、豊田屋より果物一籠求め先生御宅へ参上、御挨拶の上、御仏前へ御供へす。夜八時、鍛冶君宅へ加藤参集し、十二月廿日決定の事業予定並びに予算を謄写版に刷る。

一月六日 午前九時、先生御宅にて画家聯盟献納作品持参、研究会を行ふ。

小野(鹿)、南家(風景)、松井(キツ、キ)、鍛冶(菊)、室田(子供)、加藤(山)、野々内(南天)、久山(芍薬の花)、中本(婦女)、上田、吉井(女)、村上(産女)

国民儀礼、先生御批評、投票

優作 南家、村上、松井、加藤

研究会終了後、前年度成績優秀者表彰

研究会七回、出品総数五十三点、優作十九点、準優作七点、成績優秀者四名

村上、松井、小野、加藤、先生より賞状を賜ふ。

幹事より本年度事業予定及予算を先生並に塾員一同へ呈出、解説、会計より会計報告あり。住居用紙各自二分分配す。一通先生、一通幹事。

京都護国神社社務所襖揮毫案、全員賛成するも塾の名譽に関する大仕事に付、慎重にやる事とし、一、三月の塾献納作品は本年中の研究会中に完成、持参する事に決定す(献納画寸法、縦横自由、縦一尺六寸、横一尺七寸、枠付久山氏に一任、塾より四十枚注文し、一枚分四円五十銭は二月の研究会に会計へ、他の一枚分は一時塾予備金

より一時立替へ、後日都合着次第、会計へ支払ふ事。
午後二時、先生御宅を辞し、加藤宅にて役員会を行ふ。
決定の部

- 一月廿六日以後、塾懇親会を催す
- 写生会第一回を鍛冶君宅にて開く
- 三月見学会を写生会に変更、青谷梅林へ行く
- 四月写生会を見学会に変更、醍醐へ行く
- 塾員長き病気の場合は見舞金参円とす
- 研究会の投票不適格の場合は研究会役員に再投票の権限を与へる

〔別紙、洋紙、ガリ版〕

氏 名	(電話)
住 所	
停留所	へ約 丁 入ル
本 籍	
住居先略図	
通信網	班 通知様式

○月ハ係ニテ記ス

〔別紙、和紙、ガリ版〕

昭和十八年度

予 算

収入之部

一、塾費

一、前年度繰入繰越

計

~~~~~

五四〇、〇〇  
一七三、四二  
一金 七二三、四二

支出之部

一、謝礼費

一、事業費

(内訳) 写生会費

見学研究会費

献納費其他

一、通信費(プリントを含む)

一、交通費(補助)

一、臨時費(雑費を含む)

一、予備費

計

一三〇、〇〇  
二五〇、〇〇  
三五、〇〇  
一五、〇〇  
二〇〇、〇〇  
七〇、〇〇  
三〇、〇〇  
六〇、〇〇  
一七五、四二  
一金 七二三、四二  
以上

〔別紙、洋紙、ガリ版〕

昭和十八年度

中村大三郎画塾本年度事業予定

一月

○新年挨拶及び書初会(一日午後一時先生御宅)

△(西山先生御宅へ年賀)

△先生御尊父三回忌(四日)

(墓参、先生御宅へ参上)

○研究会(六日午前九時ヨリ先生御宅)

×全日本画家献納作品

○写生会(下旬)

二月

○研究会(日曜午前九時ヨリ先生御宅)

×塾献納準備作品

○写生会(下旬)

三月

○研究会(日曜日午前九時ヨリ先生御宅)

×塾献納準備作品



- 見学会(下旬)  
市展出品下図相談(下旬)  
四月  
市展出品制作  
○写生会(下旬)  
△役員会(下旬)  
五月  
○研究会(日曜日午前八時半ヨリ先生御宅)  
○写生会(下旬) 座談会ヲ兼ヌ  
六月  
○研究会(日曜日午前八時半ヨリ先生御宅)  
○写生会(下旬)  
院展制作(希望者) 下図相談(下旬)  
七月  
○研究会(日曜日午前八時半ヨリ先生御宅)  
中間会計報告(研究会当日会後)  
○見学会(下旬)  
文展制作下図相談(下旬)  
八月  
文展制作下図相談  
△八朔ノ挨拶(中村先生西山先生御宅)  
△先生御尊父御墓及御宅参拝(十二日)  
○座談会(下旬夜間)  
九月  
文展出品制作  
文展出品画下見会(下旬)  
十月  
文展出品制作御礼御挨拶  
△文展審査員出発御見送(迎)  
○写生会又ハ見学会(下旬)  
十一月

- 研究会(日曜日午前九時ヨリ先生御宅)  
○写生会(下旬)  
△役員会(下旬)  
十二月

- 研究会(十三日午前九時ヨリ先生御宅)  
△事始ノ挨拶(中村先生西山先生御宅)

会計報告(十三日)

成績優秀者表彰(十三日)

役員改任(十三日)

△新旧役員事務引継(中旬)

(注) ○印ハ塾員総出席

△印ハ役員

一、警報発令中ハ塾会合ハ延期又ハ中止シ追テ通知す

一、四月以降ニ於テ塾献納画献納方法其他ニ付臨時役員会、臨時塾總會

ヲ開ク

~~~~~

塾本年度方針

一、献画報国ノ実践

一、研究会ノ拡充

一、全出席ノ励行(定時集合、無届欠席ノ皆無)

〔後欠〕

【H】

作品を執筆する申合せを行ひたる由を先生に申伝ふ。右献納作品は
次回の研究会迄に全部完成の上、先に完成せる献納作品と共に先生
に御一覽に供する為、持参する事に決定^{〔原紙補訂〕}。尚、別記の如く各自
一点づ、余分に仕上げる事に決定せる旨を先生に報告し御了解を得、
右追加作品は都合に依り五月中に完成する様にと先生より御言葉あり。
市展制作者は去る廿五日の締切日に美術館に搬入す。出品者氏名は
左記の通り。

鍛冶 風景(昨年文展制作) 野々内 霜

小野 早春風景
村上 芸技(昨年文展制作)
加藤 やぶ
上田 漁村(塾展予備作品)
増田 人物
今年先生、審査員に御任命あり。未だ御病氣中にも拘らず審査に御出席あり、出品者は全部入選せる旨の御言葉あり。感激す。小野踏青氏作品、優秀なるを以て入賞し、中村塾の為に気を吐く。

〔別紙、和紙〕

	十三点	十九点	九点	計四十一
作品の出来た数	1	1	1	3
これから出来る数	1	1	1	3
追加作品数	1	1	1	3
中本	1	1	1	3
久山	1	1	1	3
野々内	1	1	1	3
小野	1	1	1	3
加藤	1	1	1	3
田中	1	1	1	3
上田	1	1	1	3
松井	1	1	1	3
川島	1	1	1	3
南家	1	1	1	3
室田	1	1	1	3
村上	1	1	1	3
吉井	1	1	1	3
鍛冶	1	1	1	3
由里本	1	1	1	3
増田	1	1	1	3
伊藤	1	1	1	3

〔別紙、和紙、ガリ版〕

研究会通知(五月)

日時 五月九日(日) 午後一時ヨリ

場所 先生御宅ニテ

作品持参ノコト

当日、塾献納作品の件に付種々御相談申上度、全員定時迄、必ず御集り願上度、右御通知申上候、
尚、先に完成致し候献納作品、当日先生御一覽のため御持参下被度申添候、
貴下献納準備作品数(役員調査)(四月二十七日調)
○ 三月研究会迄に完成せし分 点
○ 五月塾展迄に完成、持参されたき分 点
○ 塾より更に追加希望の分(五月中完成のこと) 点 (以上)
〔別紙終わり〕

五月九日 研究会、午後一時

出席者 小野(花鳥)、村上(子)、松井、川島(梅・桜、二点)、鍛冶(桃の花咲く風景・若葉の風景、二点)、加藤(桜・椿、二点)、野々内(藤)、上田(松・漁村・冬の山・ネギのある風景)、南家、増田(花をもつ女)、室田(風船を持つ子)

投票 村上、加藤 優作

増田、鍛冶 佳作

今回は再投票を行ひ、各自投票せる理由を口答し、極ふる活気ある面白き研究会なりき。今回は先生、塾員の批評無し。献納の作品、今迄に完成の分、全部練列す。追加作品は本月廿七日頃迄に完成し置き、次回行はれる加藤宅に於ける写生会の日に作品全部を加藤画室に持ち寄り、先生に御足労を願ひ、御一覽相成る事に決定す。廿日、役員のみ会計上田氏宅に保管しある枠並びに額縁塗りに上田氏方へ集合の事、決定、散会す。

五月廿日 午後七時、役員鍛冶・加藤・松井・室田諸氏、上田氏宅へ参集。

午後十一時過ぎまで、去る九日、上田氏より内意をうかがひたる枠見本(濃口及び淡口、ふたて)ニ依り、枠及額縁に塗料を塗る。塗業をほどこせる枠に別記の如く廿五、六日中に上田氏宅へ取りに行き、廿九日(確定)の写生会当日迄に本紙を枠に貼り付け、加藤宅へ持

参する様、申合せ、別記の如く通知を塾員に出す事に決定。

「別紙、和紙、ガリ版」

塾御通知(五月廿二日)

一、写生会之件

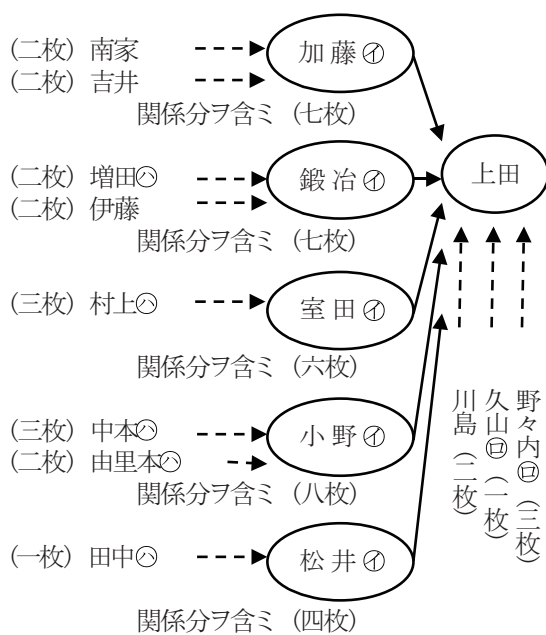
日時 五月廿九日(土) 午前十時より(中食持参)

場所 加藤君宅(画室) 右京区嵯峨刈分町五の一

材料 人物(着衣の女)

一、献納画化粧枠に関する件

塾献納作品も先生の御指導と諸兄の努力にて本紙近々完成致すべく御同慶に存居候。就ては先に役員に於いて化粧枠色ぬりを了へ置き候へば、御面倒乍ら各自関係分、左記に依り御持帰り被下度願上候。尚、各自に於いて丁寧化粧枠裏面に本紙を張上げ(本紙のみ、裏面の木板は只今物色考慮中)、来る廿九日写生会当日、加藤君宅へ御持参相成度、右御願申上候(化粧枠は先に先生の御教示の様、二種の色のものに致置候に付、各班へ大体半数づ、分配いたすべく候、各班に於いて適当に御相談の上、御分配被下度願上候)。



(注) ①印ノ方ハ上田君宅へ廿五日、廿六日中、関係分枚数(大キナ布シキ、麻ヒモヲ持チ)取りニ行クコト

②印ノ方ハ廿五日、廿六日中、上田君宅へ自分ノ分ヲ取りニ行クコト

③印ノ方ハ矢印ノ所へ廿七日中ニ取りニ行クコト

印ノ方ハ矢印先ノ方へ作品ヲ届ケレバ化粧枠へ張りマス

一、献納作品画題に関する事項

仮目録作成及び一時作品裏面へ張附致し度候に就き左記へ記入の上、化粧枠裏へ張附(一号用紙のものは一枚一枚化粧枠裏面左側上方へ上下にノリをつけ張付け被下様、二号用紙は仮目録作成の際、必要のものに付、当日御持参被下度願上候(献納の場合には塾にて一定のもの作成。不体裁に成らざる様、注意致す筈に御座候)。(×印ハ係ニテ記入)

一、田中君転居先

京都市上京区紫竹桃ノ本町五八 田中久義

〔別紙、和紙、ガリ版〕

×	番号
題 命	
住所 氏名	
号 一	

×	番号
題 命	
住所 氏名	
号 一	

×	番号
題 命	
住所 氏名	
号 一	

×	番号
題 命	
住所 氏名	
号 一	

〔別紙終わり〕

五月廿八日

先日大政翼賛会文化部長高橋氏に先生が御面接になり、今回企てる塾献納画に付、御話ありたる処、^{〔別紙補訂〕}万事御世話を願ふ事になり、本日、先生御宅へ御来駕相成る由にて、出来る限り多数の作品を御覧に入れたいと先生の御希望に依り（加藤参上承る。鍛冶電話にて承る）、直ちに通信網に依り、小野・上田・野々内諸兄に通知す。十時過頃、右作者各自作品相たずさへ先生宅へ持参し、高橋氏に御一覽に供す。午後四時、舞鶴病院献納式に幹事・副幹事、美術館へおもむく。高

橋氏も大変立派だと大いに喜んでゐられたと先【G】生より承はる。五月廿九日 写生会、午前拾時半、加藤宅

午前十時、幹事・副幹事同道にて献納の件に付、種々御心労預りたる御札の挨拶に参上、先生昨日の御疲労か御休み中にて其の由を御取り次ぎ願ふ。午後二時過、先生御宅より御呼出し有り、幹事・副幹事直ちに先生御宅へ参上す。来る六月三日迄に各々画題を幹事迄届け、五正大政翼賛会文化部長殿宛発送の事。作品は全部、美観の上から横物に一定の事。違つて作品の描き直しする者、未だ完成してゐない者は六月十日頃迄に必ず仕上げ置く事。研究会は十二日午後一時より開く事等の御依頼あり。拝承して先生御宅を退下す。

六月一日 朝九時、鍛冶・加藤・野々内・村上諸氏、上田道三氏宅へ参集。献納額裏面のボール紙を作成、午前中終了。

六月十二日 研究会。午後一時より

鍛冶、上田、村上、田中、小野、加藤、中本、増田、松井

【I】

作品 小野（くぬぎ林、及石^{〔補〕}献花）、中本（帽子の少女、及着物を縫ふ）、松井（けし）、野々内（若松、及しだ）、増田（女）、加藤（麦、つ、じ、けし）

優作 中本（少女）、加藤（麦、つ、じ）、松井（けし）、以上四点以下、出品作全部佳作

先達て来、献納の件に付、御心労の為、先生ニは引続き御休命中にて中途より態々研究会に御来会あり。一同恐縮す。今月廿日過ぎ、翼賛会より先生御宅へ御来駕有之予定に付、其れ迄には未成の人は全部完成の上、廿日迄に加藤画室に持ち寄る様、先生より御話しあり。尚、献納画全部、当分加藤宅に保管する事に決定。塾員一同、研究会終了後、研究会作品を加藤画室へ^{〔補〕}運伴す。

六月二十四日 先生、午后一時三十八分、文展用務の為、つばめにて東上される。御令室様御同伴にて。塾員一同御見送り申上ぐ。

〔別紙、和紙、ガリ版〕

写生会通知（六月）

日時 六月廿七日(土)

午後一時ヨリ

場所 野々内君宅ニテ

左京区浄土寺馬場町七六

市電 銀閣寺電停下車、南え約三丁

右文通開催候に付、御参集被下度、御案内申上候

〔地図有〕

〔別紙終わり〕

六月二十七日 先生、本年度文展審査員任命の【D】発表あり。塾より御祝電を發す。

此の日、野々内保太郎氏宅にて金魚・小芻・孔雀鳩の写生会あり。

出席者 鍛冶、加藤、野々内、松井、小野、村上 諸氏

夕景まで熱心にスケッチを行ふ。

七月一日 午前五時五十七分着列車にて先生御夫妻御帰洛遊さる。上京中御気分悪しとのことにて一同御案じ申上げ御安静を祈る。

七月五日 午後八時先生御宅より電話にて幹事参上す。次回研究会の日時及献納画の事に付、色々御指導ありたり。研究会十八日午後一時より先生御宅にて。献納画は九月上旬京都大丸にて展覧会、一般に公開。凡て翼賛会をわずらわす事となれり。

七月七日 早朝、先生より電話にて十八日先生御宅の大掃除の為、研究会は次の日曜廿五日午後一時より開催に変更あり。塾員へ通知状を改刷シ通達す。

〔別紙、和紙、印刷〕

御通知(七月)

研究会及小下図相談

日時 七月廿五日午後一時より(第四日曜)

場所 先生御宅にて

当日文展に関する先生よりの御話、下図相談日の発表、及び献納画の件等の事項、御相談有之。全員必ず定時御出席被下度、右御案内申上候。

先月研究会の席にて御相談申置候様、臨時費(献納費追加)二円也、

当日塾会計に御納め被下度。

七月写生会なし。

以上

七月八日

〔裏面、毛筆〕

七月十四日

産業報国会本部より志賀宣伝部長、先生御宅へ来駕有り。今回の塾計画、産業戦士激励慰問寄贈画展に附、種々協議あり。作品四十点鑑賞の上、帰京す。

〔別紙終わり〕

七月二十五日 京都日本画家聯盟十八年度定例総会、午後一時より知恩院下華頂会館に於て開催さる。塾員一同出席、上田會計へ本年度会費納入す。先生、十八年度の画家聯盟理事長として尽力致さる、事になり、御挨拶遊さる。当日は塾の研究会なるも総会の為、廿六日に延期す。

七月廿六日 研究会(午後一時より先生御宅にて)

正午、先生御宅へ産業報国会副参事堀越巴氏来駕、産業戦士慰問展の件に付、幹事・副幹事・前幹事野々内・小野両氏と種々打合せを行ふ。後、青甲社慰問展に付、塾員一同、種々御話を伺ふ。有意義に終了す。尚、作品全部鑑賞に供す。

出席者 鍛冶、加藤、野々内、小野、松井、室田、中本、上田、南家、村上、田中

研究会作品出品者 松井(雨後風景)、村上(人物)、室田(胡瓜)、

鍛冶(月夜風景)

優作 松井

準優作 村上

尚、南家君風景写生五点出品す。

先生中途にて御不快の為、御休息遊さる。

夜八時、鍛冶、野々内、小野、加藤、先生の御召しに依り出席、明日、堀越氏とのプランに付、打合せを行ふ。

七月二十七日 午前八時、鍛冶、小野、野々内、加藤四名、堀越氏旅館
五条弁慶楼へ行く。五名打そろひ大丸へおもむく。東條支配人、用
事の為、人事部長泉富太郎、宣伝部長井上甚之助氏に面接シ、産業
戦士感謝激励慰問展内示展の期日に付、打合せを行ひたる結果、

第一案 八月卅一日より九月五日迄

第二案 八月廿四日より八月廿九日迄

第三案 九月七日より九月十二日迄

右の内第一案可能性あるも二、三日以後、先生御宅へ直接書面にて通
知するとの事にて、決定次第、塾より産業報国会へ電報にて通知す
る事に決定す。次ハ京都府産業報告会支部（前京日後）に行き、主
事上原義太郎氏に面会し、内示展の主催の件、快諾を得、産報関係
の案内状を支部より差出して戴く事、依頼の事も快諾を得。外箱：
内示展終了後、北海道への輸送荷造りの箱、裏板：画面裏面に張る
うす板、の件を話したる処、外箱は快諾、裏板も確かな返事は先生宛
二、三日中に御通知願ふ事にして、万事好都合に運び、産報支部を退
下す。堀越氏とわかれ、幹事・副幹事、正午先生御宅へ御伺し、右
事項を報告す。
文帝展・市展其他の出品作品にして各自保存せる大・中・小作品を
産業部^マ面へ寄贈の件、先生、及塾幹事・副幹事協議す。夜十一時廿
分発の列車にて堀越氏帰乗され、幹事・副幹事御見送り申上げ、右
の由を産報宣伝部長志賀見氏に御取次ぎの程申伝ふ。

〔別紙、和紙、ガリ版〕

通知（昭和十八年八月）

一、文展下図相談

文展制作下図相談日は特定してゐません故今後とも電話にて先生の御
都合をお伺して各自御宅へ参上御指導をうけること。

一、塾寄贈画展覧会準備会期中役割当番割当

各自文展制作前にて御多忙中恐入りますが、左記の様、役割当番割
当をいたして置きました故、各位には関係分責任を持ち決行何分御
願いたします。

月 日	用 件（役 割）	係氏名
八月十日まで（完了）	私蔵画、工場寄贈作品画題寸法、献	全員
八月十二日まで（完了）	画感想文 幹事まで報告	
八月二十二日まで	案内状、趣旨文案作成	田中、松井
八月二十二日まで	表具交渉	加藤
八月二十三日まで	印刷完了（案内状、趣旨文、目録等）	室田
八月二十三日まで	新聞社・雑誌社関係挨拶状作成	鍛冶、加藤
八月二十三日まで	展覧会発表	
八月二十四日（火）	京都各新聞社、各関係先へ挨拶	鍛冶、加藤、小野、野々内
八月二十五日まで	東京大阪方面新聞社案内状発送、東京	鍛冶
八月二十七日	二十一日中、速達便	
八月二十九日まで	京都無鑑査案内状発送	小野、野々内
八月二十九日まで	雑誌関係案内状発送並びに先生御作品	加藤
八月二十九日まで	写真各関係先へ送付	
八月二十九日まで	久邇宮家参上御挨拶	松井、鍛冶
八月二十九日まで	大丸会場、井上氏へ面接	全、
八月二十九日まで	裏板（外箱完成）はりつけ完了	上田
八月二十九日まで	枠色ぬり、仕上げ（集合場所時間、	村上、田中、加藤、
八月二十九日まで	上田君より通知）	室田、上田、鍛冶
八月二十九日まで	寄贈目録作成、画題氏名（会場用）、	鍛冶、中本
八月二十九日まで	浄書（短冊）	
八月二十九日まで	裏面画題、住所氏名、履歴記入用紙作	鍛冶
八月二十九日まで	成（プリント）	
八月二十九日まで	全記入	加藤
八月二十九日まで	巡回展揭示用、趣旨文、浄書	野々内
八月二十九日まで	巡回展揭示用、画題、氏名、感想文、	川島
八月二十九日まで	色紙へ浄書	
八月二十九日まで	大丸井上氏面接	加藤、鍛冶
八月二十九日まで	各関係方面へ御礼状発送、及御礼参上	小野、野々内、
八月二十九日まで		松井、室田、上
八月二十九日まで		田、田中、加藤、
八月二十九日まで		鍛冶、中本
八月二十九日まで		全員
八月三十日（月）	会場作品陳列に付、午后一時まで	
八月三十日（月）	大丸七階会場集合	

作品運搬
(陳列時間変更の場合は通知す)
現役員、村上、中本
八月卅一日(火) 第一日当番会場写真撮影、日誌記入 当番 鍛冶、上田
九月一日(水) 第二日 日誌記入 当番 加藤、小野
九月二日(木) 第三日 全 増田 当番 野々内、
九月三日(金) 第四日 全 室田、村上
九月四日(土) 第五日 全 当番 松井、田中
九月五日(日) 第六日 全 当番 中本、南家
〔九月六日〕 〔九月六日〕 ヨリ搬出。荷□の上、□□産報 全員(上田君主任)
本社発送
□□□□重要事項は先生へ電話又は
御宅参上□□□□

〔別紙終わり〕

八月一日 鍛冶、上田、西山先生御宅へ参上。暑中の御挨拶申上ぐ。又、先生御宅へ推参し御挨拶申述ぶ。飲料水を手し御納めす。

【E】午後十時十六分発にて文展の件に付、東上さる。鍛冶、野々内御見送り申上ぐ。

八月五日 夜、先生御宅へ全員集合。展覧会役割等に付、種々打合せを行ふ。

室田： 案内状印刷、及目録

松井・田中： 趣旨、及案内文章作成

加藤： 裏面に画題・作者・氏名・^{〔略〕}歴を記入

上田・鍛冶・野々内・中本・小野： 外箱

鍛冶： 献納目録の作成

作品の感想を二、三行程度に簡単に各自が作り、来る十日迄に鍛冶氏宅へ発送の事。右は巡回の節、色紙へ記入し作品の下部に張る。尚、産業会へ各自保存の大作献納の件(廿七日参照)、幹事より全員にはかりたる処、万場一致賛成を見、献納作品の画題・寸法も十日迄に記入し、幹事宛発送する事に決定す。

八月六日 上田、鍛冶、外箱の件に付、青甲社森守明先生宅へ朝十時頃参上し、引続き京都府産業報国会係へ行き、二時、先生宅へ報告。^{〔結局〕}決曲、外箱の件については上田及鍛冶が責【K】任者としてあたる

事とす。

八月八日 上田・鍛冶両名、先生御尊父の御墓に参拝す。

八月十日 案内状、及趣旨の原稿を松井、先生御宅へ持参し完成。

八月十一日 室田、印刷交渉す。又、加藤は献納作品中、汚損の作品に付、銀モミの小べりを表具屋に依頼せるが、本日出来上り、自宅に持ち帰る。

八月廿二日 印刷物完成。夜八時、鍛冶・加藤、先生御宅へ参上。雑誌社其他への案内状、及写真^{〔送付〕}発付の件に付、談合。

八月廿三日 本日、展覧会発表を行ふ。鍛冶・加藤・小野・野々内四名は、朝日新聞、及毎日新聞京都支局、京都新聞、大阪新聞京都支局、同盟通信京都支局、及放送局に挨拶に行く。

又、東京・大阪各新聞社、大日本産業報国会本部、大政翼賛会文化部長高橋氏宛、中央郵便局より先生御作品写真・案内状・目録を添へ、発送す。

〔午後〕 午後三時、放送局より放送あり。

〔午後〕 午後三時、先生に報告す。府知事・部長級、市長・助役・局長、府・市翼賛会、京大総長、絵専校長住所を取調べ、案内状発送す。

八月廿四日 松井・鍛冶、午前十時、久邇宮様宅へ御挨拶に参上す。多分、九月一日には内示展へ御成りの御予定と承る。三十一日、松井のみ

御伺し、御日取り決定を承り、直ちに塾員に知らす事に打合す。産業報国会へ目録、趣意書^{〔午後〕}廿枚を持ち、係辻氏に渡す。大丸に会場略図交渉、ほゞ決定す。午後三時、先生御宅へ報告す。

八月廿五日 廿四日より大丸にて会催中の仏印現代美術展出品の為、来朝中の安南画家、先生御宅へ献納画を参観。加藤・上田、全作品を運搬す。当日、上田、枠の汚損の物、全部塗り替へを行ふ。廿四日、毎日新聞、大阪新聞、京都新聞紙上に掲載あり。廿七日、朝日新聞に掲載あり。

八月卅日 陳列日

朝十時、塾員、加藤宅に集合。自動車にて全作品を京都大丸に運搬す。先生御病気の為、御欠席の趣にて、塾員全部立ちあひ、色彩・画材のとりあわせを考慮して陳列を行ふ。午後二時完了す。先生、大

原女を題材とせる「夕月」御出品遊さる。裝飾粹一定し、作品もよくまとまり、明快にして、会場の気分佳し。午後二時頃より五時迄、大阪新聞京都支局、毎日新聞、京都新聞各社、參觀す。愈々、明卅一日より六日間、九月五日迄開催。塾員一同、盛會を祈る。

会場入口には大丸より作成の趣旨（文章は案内状に記入のものと同一）を立て、受付を備へ、女店員、此れにあたる。目録は受付に備ふも、枚数僅少の為、希望の人のみに手交す。会場内にソデを一ヶ所取りつけし為か、作品の間かく程良く、感じよし。腰掛、植木を配置す。帰路、幹事・副幹事、先生御宅に参上し、報告す。

八月卅一日〜九月五日

開期中の記事、其他明細は別冊。内示展記録に有り。

九月六日 整理の為、全員、九時、加藤宅へ集合す。上田・中本・村上は、早朝、大丸におもむき、産報本部へ発送の荷造りの件に付、打合せを行ふ。幹事・副幹事は、左記各社へ御礼の挨拶に行く。

毎日新聞支局、朝日新聞支局、大阪新聞支局、同盟通信支局、京都新聞、読売新聞京都支局、放送局。

新聞社へ行く迄に、先生御宅へ立寄り、受取りたる夕月の感想を御記入相成りたる御色紙をたずさへ、合同運送へ行き、作品と一緒に発送方をかゝりの者に依頼して、加藤宅へひきかへす。小野・室田・野々内・松井は、新聞社への礼状を完了。幹事・副幹事・会計、打そろひ、先生御宅へ参上し、御報告申上ぐ。先生には文展準備中、全員の内示展に対する努力を謝し、今後は全力を文展制作にそゝぐ様にとの御話承り、先生の御疲労再発無き様にと念じつゝ、先生御宅を辞去す。午後四時半、加藤宅にて参集の一同、散會す。

当日出席者 鍛冶、加藤、上田、野々内、小野、松井、室田、中本、村上

追記 内示展に附、特に御世話になりたる大丸専伝部長井上甚之助氏、及男子店員二名、女店員三名に、謝礼として塾役員執筆の色紙、及扇子を大丸におもむき手交す。又、会期中、依頼せる会場写真、久邇宮故多嘉王妃静子殿下の台覧の御写真等、焼増完成し、井上部長、先生御宅へ持参せられしを以て、一部を先生御宅に、一部を東京産

報本部に発送す。本年度文展制作小下図並に草稿相談日は先生の御都合に依り構（設けずカ）けず、各自御電話する事とす。文展下見会日時を美術館へ交渉せし処、来る九月廿五日に決定す。

九月廿五日 文展下見会 午前九時より

戦時下、輸送の都合上、寸法は縦物は横四尺・縦七尺、横物は横五尺・縦四尺以内に限定さる。当日、出席者の決定せる出品者の画題・寸法、左の如し。

	画題	(画面)
鍛冶	流れ	縦物 五尺五寸・三尺六寸
小野	鳶	〃 三尺六寸・六尺六寸
野々内	新秋	〃 三尺五寸・六尺一寸
松井	桜	〃 三尺五寸・六尺四寸
室田	孫	〃 三尺五寸・六尺
増田	臨時ニュース	〃 三尺五寸・五尺九寸
由里本	朝	〃 三尺六寸・六尺八寸
上田	志摩の村	横物 四尺六寸・三尺六寸
川島	残照	〃 四尺二寸・三尺
南家	加茂の堤	〃 四尺二寸・三尺八寸
加藤	赤沢山	横物 四尺四寸・三尺四寸

早朝より先生の御来臨を仰ぎ、御懇切なる御指導に預る。出品者中、村上・伊藤欠席。中本・田中は不出品なり。九月卅日、完成の上、全員出品す。松井出品時間遅延せし為、受付をこばまれ、東京へ輸送せり。又、吉井は東京より出品す。

十月九日 先生、文展審査に東上さる。八日夜、東上相成る御予定なりし処、御体御疲労の為、突然延期となり、一まず塾員へ速報し、十日夜七時五十分迄にて塾員一同、青甲社幹部の方々の御見送りあり。奥様御同道にて東上遊さる。

十月十日 東上の先生より電報にて入選者の御通知あり。本年は例年より二日早く発表あり。入選者は以外に早く快報に接す。総計十名の入選者あり。極（願ふカ）る成績佳し。

入選者氏名

小野、鍛冶、村上、上田、松井、川島、南家、吉井、伊藤、加藤
当日、鍛冶・上田・南家・小野・加藤、先生御宅へ御礼の御挨拶に参上す。
十月十六日 先生並びに奥様には、午前六時拾二分着の列車にて、塾員
一同、並に青甲社森・小川両氏の出向^四へを受けさせられ、無事帰京
遊さる。

十月廿六日 見学会 奈良博物館

出席者 上田、野々内、松井、村上、田中、計五名
午前十時出発、博物館・三月堂内観。午後七時帰京す。

十一月十九日 先生には御母堂・道太郎先生御同伴にて東上遊され、幹事・
副幹事・会計、京都駅迄御送り申上ぐ。御出発午後七時五十二分。

十一月廿四日 午後七時五十分着、御機嫌宜く御帰京遊さる。副幹事・
会計御出向^四へ申上ぐ。

十二月十三日 午前九時、幹事・会計、西山先生御宅へ事始めの御挨拶
に参上。帰路、副幹事と三名にて先生御宅へ参上す。本日、研究会
の予定なりしも、日本美術及工芸統制協会京都府支部決成式^{結成}当日の
為、延期す。

十二月十六日 研究会、午後一時

出席者 鍛冶、加藤、小野、野々内、室田、上田、村上、室田^{ママ}、吉
井

作品 村上（娘）、野々内（風景）、鍛冶（風景）、小野（風景）、

加藤（鶏頭・菊・風景、三点）

加藤 鶏頭六点、菊五点、村上五点、野々内三点、以上四点優作。

今年度文展入選作献納の件、時局益々重大なるに鑑み、画家の彩管
報国として塾員入選作献納賛否に就き、各自の意見あり。研究余散
余後、鍛冶・上田・加藤、先生御宅へ参上し、右の件に付、協議す。
出席者全部賛成意見なるも、欠席者の意向不明の為、役員にて明日
にても家庭を訪問する事に決定し、散会す。午後八時、鍛冶・上田・
加藤、先生御宅へ参上し、右の件に付、先生と種々協議を行へり。

十二月十七日 本日早朝より、欠席者の家庭を訪問す。茲に塾員全員の
賛成を見たり。文展出品作は一まづとりまとめ、上田宅に保管す。

十二月十九日 画家聯盟の勤労報国隊決成^{結成}の件に付、京大友会館に於

て委員会有り、委員出席す。

十二月廿一日 幹事、先生御宅へ参上。文展入選作献納に対する塾員の
総意を報告す。

昭和^{マコ}明年度役員改選は例年通り留任と決定す。

昭和十九年一月元旦

午前十一時、鍛冶・加藤は西山先生、堂本先生、道太郎先生御宅へ
年始の御挨拶に参上す。

十二時、塾生全員、護国神社に集合、参拝。記帳の上、先生御宅へ参上す。
出席者 中本、松井、村上、南家、鍛冶、加藤、室田、小野、上田、野々
内、田中

午後一時、先生御着席。国民儀礼の後、国歌斉唱、幹事挨拶。先生
御挨拶あり。先生の御発声にて聖寿万歳、引続き幹事の発声にて中
村塾万歳を唱和し、一同乾杯す。式終了後、画始会を行ふ。研究会
は今後、毎月第二土曜日午後一時より開始。引続き座談会開催に付、
有志者は弁当持参の事。

尚、先生より資材統制資格の件に付、種々御話有り。午後三時、散会す。

「一月四日条は貼紙補訂」

一月四日 夜七時より塾より小野・鍛冶、画家聯盟へ案内状発送の加勢
に行き、午前一時頃帰宅。

一月七日 午後一時、画家聯盟勤労報国隊決成式^{結成}。平安神宮神前にて厳
そかに決行さる。

出席者 野々内、小野、室田、田中、鍛冶、加藤、中本
勤労報国隊結成責任者として先生の御挨拶あり。

全夜、役員会を鍛冶宅に開く。

出席者 鍛冶、加藤、松井、室田、田中
十九年度事業予定並ニ予算に付、協議、決定す。

一月十四日 写生会 午前九時三十分より
中食持参、小野君宅にて小鳥の写生（鶯・目白・頬白其他）

出席者 鍛冶、小野、上田、中本、田中、室田、松井、野々内、村上
以上九名

一月十八日 午前十時、幹事、先生宅に参上。十九年度事業予定、会計、予算案等報告。承認を得。

一月廿二日 研究会、及び総会 午後一時より

出席者 田中、松井、室田、川島、野々内、鍛冶、加藤、中本、上田、増田、小野

出品作 田中（少女）、松井（梅）、川島（ザクロ二点）、上田（風景

二点）、加藤（風景）、野々内（椿二点）、小野（キツ、キ）、

村上（人物）、鍛冶（菊）、室田（人物草稿）

優作 田中、川島、加藤、村上、野々内

右は全部、本月末出品の査定の作品なり。

五時、研究会終了。先生御宅にて各自持参の弁当夕食。先生御臨席のもとに座談会を催す。鍛冶、司会す。斎藤紫山氏入塾希望の件、総会に計る。万場一致にて入塾決定す。

〔別紙、和紙、ガリ版〕

昭和十九年度

中村大三郎画塾事業予定

一月

○新年挨拶及び書初会（一日午後一時ヨリ先生御宅）

○護国神社参拝

△西山先生御宅へ年賀

○研究会及び総会（廿二日第三土曜午後一時ヨリ先生御宅）

座談会司会 鍛冶

○写生会（中旬、当番 小野）

二月

○研究会（十二日第二土曜午後一時ヨリ先生御宅）

座談会司会 中本

○写生会（下旬、当番 田中）

三月

○研究会（十一日第二土曜午後一時ヨリ先生御宅）

座談会司会 野々内

○写生会（下旬、当番 上田）

市展出品下図相談（下旬ヨリ）

四月

市展出品制作

●市展開催セザル場合、研究会（八日第二土曜午後一時ヨリ先生御宅）

座談会司会 室田

○見学会（下旬、当番 役員）

△役員会（下旬）

五月

○研究会（十三日第二土曜日午後一時ヨリ先生御宅）

座談会司会 加藤

◎塾員工場一日入所

産業戦士敢闘ヲ彩管ニヨリ紹介ス

六月

○研究会（十日第二土曜午後一時ヨリ先生御宅）

座談会司会 小野

○写生会（下旬、当番 松井）

七月

○研究会（八日第二土曜午後一時ヨリ先生御宅）

座談会司会 田中

文展制作下図相談（下旬ヨリ）

八月

文展制作下図相談

△八朔ノ挨拶（中村先生、西山先生御宅）（二日）

△先生御尊父御墓参拝（十二日）

九月

文展出品制作

文展出品画下見会（下旬）

十月

△役員会（上旬）

○研究会（廿八日第四土曜午後一時ヨリ先生御宅）

座談会司会 上田

十一月

◎献納作品展覧会(各自研究会出品作品二点宛出品)

出品数三十二点、大キサ自由

十二月

○研究会(十三日水曜日午後一時ヨリ先生御宅)

△事始ノ挨拶(中村先生西山先生御宅)

会計報告・成績優秀者表彰・

役員改任(以上十三日)

(座談会司会 松井)

○写生会(下旬、当番 室田)

新旧役員事務引継(下旬)

(備考) 座談会ハ研究会ニ引続キ開催、弁当持参

警報発令ノ際ハ会合ハ延期追テ日時通知ス

「別紙、和紙、ガリ版」

昭和十九年度

予 算

収入之部

一、塾費

一、前年度繰

計一金

~~~~~

支出之部

一、謝礼金

一、事業費

(内訳)

写生会費

見学研究会費

展覧会費其他

一、通信費

一、交通費

一、臨時費

一、予備費

計一金

中村塾

以上

「別紙終わり」

二月一日 午前十時半、幹事、斎藤同道にて先生宅に入塾御挨拶に上る。

二月四日 相続会館に於て京都日本画家聯盟勤労報国隊役員会あり。午

后一時開会、士氣高揚日本画展の件、及一ヶ月以上長期に亘り勤労

報国に堪へる者の隊員氏名報告の件等に付、会儀(議)あり。午后

四時散会。

二月十二日 研究会、午后一時より

出席者 田中、松井、室田、川島、野々内、加藤、中本、小野、斎藤、

村上、鍛冶、増田、上田、南家、佐々木

作品 上田(風景二点、温室・道)、村上(屋根ノある風景)、斎

藤(鯉)、加藤(藪)、野々内(子供)、松井(風景)、小野(川

セミ)、松井・加藤・村上 優作

座談会 中本司会

通信網一覽、二月四日に於ける件、幹事より報告。久方ぶりにて出

席せる佐々木氏より北海道鉾山の状況及勤労報国隊に対する希望等

話あり。画家の時局に対する認識等、極<sup>風力</sup>ふる有意義に午后九時座談

会を終了し、散会す。

「別紙「中村大三郎画塾通信網一覽」、和紙、ガリ版、次ページ参照」

二月二十一日 写生会、田中君宅にて白川女を写生す。午后十二時半開会。

出席者 鍛冶、中本、村上、田中、室田、由里本

四時散会。

二月二十八日 先生、午后七時五十分發、東上さる。幹事、御見送り申上ぐ。

三月九日 先生、午前六時十分着にて査定審査より帰京遊さる。御奥様・

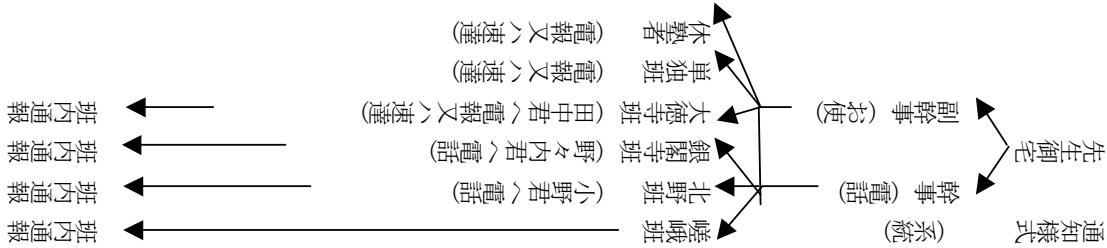
御子息・副幹事、御出迎へす。今月十一日の研究会は十八日(第三

| 塾 名  |      | (通知順)                                 |                  |
|------|------|---------------------------------------|------------------|
| 先生御宅 | 事務所  | 京都市右京区嵯峨野有栖川町 中村大二三郎先生<br>(電話嵯峨 二七三番) |                  |
|      | 班別   | 氏名                                    | 住所               |
| 嵯峨班  | 北野班  | 鍛冶照忠                                  | 右京区嵯峨伊勢上町廿四      |
|      |      | 加藤美代三                                 | 右京区嵯峨刈分五ノ一       |
| 嵯峨班  | 北野班  | 増田光子                                  | 右京区嵯峨天龍寺境内       |
|      |      | 斎藤紫山                                  | 右京区大寨南堀の内町七ノ一    |
| 北野班  | 大徳寺班 | 小野路青                                  | 上京区平野八丁柳町六ノ二     |
|      |      | 中本英夫                                  | 上京区北野紅梅町三五       |
| 北野班  | 大徳寺班 | 室田秀太郎                                 | 上京区等持院南町十ノ五      |
|      |      | 野々内保太郎                                | 左京区浄土寺馬場町七六      |
| 銀閣寺班 | 大徳寺班 | 上田道三                                  | 左京区浄土寺真如町廿四      |
|      |      | 田中久義                                  | 上京区紫竹桃の本町五八      |
| 銀閣寺班 | 大徳寺班 | 松井大浩                                  | 上京区紫野上門町六六       |
|      |      | 村上安明                                  | 上京区紫竹西南町廿七       |
| 単独班  | 大徳寺班 | 川島洞                                   | 滋賀県神楽郡北五ヶ荘村〇     |
|      |      | 南家有吉                                  | 上京区上加茂楠田町十七 平田文方 |
| 単独班  | 大徳寺班 | 吉井嘉一郎                                 | 東京市品川区大井中町三三七    |
|      |      | 由里本景子                                 | 上京区寺町通上御霊南入東ノ    |
| 単独班  | 大徳寺班 | 伊藤悠紀子                                 | 名古屋市千種区田代町城山八    |
|      |      | 福岡玉僊                                  | 下京区綾小路通西洞院西入     |
| 出征   | 休塾   | 久山正義                                  | 左京区山端川端町廿五       |
|      |      | 佐々木啓陽                                 | 上京区小松原北町七三       |
| 出征   | 休塾   | 高岡徳夫                                  | 徳島県東富田中久町二丁目     |
|      |      | 石田与一                                  | 大阪府豊中市麻田刀根山病院内   |
| 出征   | 休塾   | 前田典夫                                  | 福井市乾新町一三三        |

通知様式

備考

- (イ) ロ印は幹事・副幹事より通知様式に依り通知す  
(ロ) 電文の語尾に中村塾の ナ を附記して略号となす  
(ハ) 不在者は行先その他を成るべく明らかに置くこと





土曜日)に延期遊さる。全日、川島洞君、応召の通知に接し、午前七時半、幹事・副幹事同道にて自宅迄挨拶に参上す。帰宅後、塾員一同記入の国旗、物資不足の折柄、入手出来ず、止むなく断念す。尚、幹事の親戚にも応召あり。直ちに帰国せり。

三月十一日 午前七時、川島洞君、稻荷神社を出発す。塾員一同、全時刻に集合、見送れり。先生よりことづける餞別、川島君へ御手渡しす。吉井嘉一郎君、此度、膺徴士となれる由、先生より承はる。

三月十三日 夕刻、野々内・小野・加藤、先生宅参上、最近に於ける塾の気風に付、色々御心配相成り、一同恐懼して退下す。

三月十六日 午後六時半、野々内氏宅に塾員一同、緊急相談の為、集合す。今後は猶一層緊張し、研究会に出席する事に申合す。午後十時散会。

三月十八日 研究会、午後一時より

出席者 田中、松井、小野、上田、野々内、増田、斎藤、村上、室田、加藤、中本

出品 田中(大原女)、小野(雪の山)、上田(木材刈り)、野々内(雪の家)、松井(早春風景)、増田(人物)、村上(婦人)、加藤(風景)、斎藤(花鳥)

優作 村上、上田、田中

今日の研究会より互評を中止し、先生の御比評のみと決定。座談会は研究会終了後より夕方迄とし、夜分の座談会を中止す。先生より東京における査定の御感想を承る。甲種決定者、左記の通り。

加藤、小野、野々内、南家、由里本

其他、献納絵馬、芸術院会員作品展等の御感想あり。午後五時半散会。

四月二日 石田与一君、刀根山病院にて死去。

四月九日 写生会、上田道三宅、午前九時

出席者 鍛冶、加藤、上田、村上、由里本、田中、室田  
老母を写生す。終了後、幹事より神社への献納画に付、呈案あり。一同賛成す。午後八時、役員鍛冶・加藤・上田・室田・田中、先生御宅を訪問し、献納の件、報告し、種々協議す。午後九時半散会。

四月十四日 研究会、午前九時半より

出席者 鍛冶、上田、小野、野々内、斎藤、室田、村上、中本、加藤

作品 斎藤(梅)、室田(少女)、村上(婦女)、小野(梅林)、野々内(人物)、鍛冶(風景・椿・二点)、加藤(風景二点)

先生より御高評を賜ふ。研究会委員の呈案により、投票を中止し、優作決定は先生に一任す。

秀作 加藤 風景二点

優作 村上、室田、斎藤

座談会 司会者 室田(昼食後)

神社献納画に付、協議す。画面、横二尺二寸五分・縦二尺一寸(作品大きき三尺)、二十五点。五月中に完成、展覧会は六月上旬の予定。午後三時、全員、御庭の草刈りを行ふ。午後六時、散会。

四月十七日 幹事・副幹事同道にて献納用仮帳三十枚注文す。

四月廿六日 南家有吉君、名譽の応召にて帰省す。塾員一同京都駅迄見送る。

四月卅日 村上安秋君、応徴士として舞鶴へ出発す。午前七時、塾員一同、七条区役所広場へ集合、見送れり。

五月十三日 研究会、午後一時より

出席者 鍛冶、上田、加藤、田中、室田、松井、小野、斎藤、増田、野々内

作品出品者 野々内(桜)、松井(静物)、加藤(春日神社)、村上(白川女)、小野(鷹)、斎藤(麦)、増田(少女)

優作 村上(白川女)、加藤(春日神社)

座談会

中本英夫君、五月九日、日本国際航空株式会社へ入社。勤労報国隊より一部、九州田川炭鉱へ来る十九日出発する事となり、画家聯盟にて満四十才迄の全員の体格検査あり。万一、鍛冶・上田両君出発の場合は、留守中、野々内・小野・加藤にて塾の事務を行ふ事に決す。午後五時散会。散会后、加藤宅にて鍛冶・上田・野々内・小野諸氏集合し、種々事務の打合せをなす。

五月十八日 勤労報国隊壮行式

午後一時、華頂会館にて。体格検査の結果、今回は当塾にて田川へ行く人無し。

塾員当日出席者 上田、野々内、松井、室田、加藤  
五月廿四日 市展相談日、左記の通り決定、通報す。

五月二十九日、六月五日、六月十二日、午前九時より十一時迄、時間厳守。

六月二十六日 午後一時、華頂会館にて昭和十九年度定例総会並ニ臨時  
総会有り。出席者 上田、野々内、加藤、室田、松井。吉井嘉光君  
応召す。当日、神社献納用仮帳卅枚出来、浅井表具師より加藤宅へ  
届く。

六月二十九日 午前、副幹事、先生宅参上。京都市展入選者、当塾出品  
者全部入選の由、承る。

野々内保太郎

春昼

小野踏青

はつなつ

室田秀太郎

防空衣

斎藤紫山

清晨

由里本景子

大原女

増田光子

加藤美代三(招待)

山と家

文展制作献納者以外にて野々内、室田、斎藤三氏には丸物舞鎮人事  
部へ二尺横物程度の花鳥作品を献納する事に決定し、七月中旬頃迄  
に完成、画材はなるべく桜、<sup>昌薄</sup>昌薄。

写生会 松井宅にて、午後一時より

出席者 野々内、松井、上田、斎藤、由里本、加藤

材料 小鳥

献納作品は相談の結果、三者共横二尺、縦一尺八寸(画面)に決定。  
右寸法の洋額を加藤より注文す。

六月卅日 応召・徴用等の為、神社献納の作品執筆不加能<sup>可</sup>の人も相当あ  
る見込にて、仮帳不要分を先生より御買求相成る事になり、八枚先  
生御宅へ御届けす。

七月廿九日 研究会、午前八時より

出席者 鍛冶、加藤、斎藤、室田、小野、増田、野々内

出品作品 野々内(牛)、斎藤(あぢさひ)

猶、別に舞鶴へ献納の作品を同時に陳列す。

野々内(桜)、斎藤(桜)、室田(花昌薄<sup>昌薄</sup>)  
右作品表装は洋額縁となし、裏面は資材の関係上、ボール紙にて裏  
張す。

八月一日、丸物舞鎮人事部へ持参する事に決定す。八月の研究会には先  
に決定せる神社献納画を出品の事、決定す。

八月一日 午前、鍛冶、丸物の舞鎮人事部へ行き、作品を献納す。上田・  
加藤は西山先生御宅へ暑中御挨拶申上げ、帰路、四条大宮にて鍛冶  
と落合ひ、三名にて先生御宅へ推参、八朔の御挨拶を申述べ。

八月十日 神社謹写小下図相談日、午前八時

出席者 鍛冶(八坂神社)、加藤(檀原神社)、斎藤(近江神社)、松井(稻  
荷神社)

八月廿一日 研究会、午前八時半

出席者 小野、野々内、斎藤、増田、加藤

作品 斎藤(近江神社、未完)、加藤(檀原神社)、野々内(平安神社、  
草稿)、増田(松尾神社、写生)、小野(田植風景)

優作 加藤、小野

次回の九月十日の研究会にはぜひ全作品出品の事、猶、二枚描く人  
は全日写生を見て戴く。出席、出品共、近時極<sup>頭力</sup>る悪く、先生より再  
度の御注意を賜り、塾員一同、深々恐縮す。帰路、近日中に全員集  
合し、大いに努力奮闘せん事をちかふ。

八月廿五日 午後一時、加藤宅集合

出席者 鍛冶、加藤、野々内、室田、増田、斎藤、由里本、上田

小野君は勤務後、大阪よりかけつけたるも時間の都合にて会合時間  
に間に合はず。一同、一層奮起せん事をちかふ。

九月十日 研究会、午前九時

出席者 鍛冶、加藤、野々内、小野、斎藤

作品 野々内(平安神社)、小野(平野神社)、斎藤(近江神社)  
写生 斎藤(白峰神社)、野々内<sup>ママ</sup>(美術報国会出品写生)、斎藤

野原鳥聖氏、入塾希望の件に付、先生より御話あり。塾員より先生  
へ一任す。

九月廿二日 美術報国会へ「軍人援護」の課題にて野々内、斎藤、加藤

出品す。

九月廿四日 午後六時、全員、先生御宅(集合)

出席者 鍛冶、加藤、野々内、室田、斉藤、上田、田中

朝日新聞社との話合ひ、報告の都合もあり、神社奉納の確実なる点数、並に十月十日の研究会には全作品完成の上、集合の件に付、談合す。

九月廿七日 野原鳥聖氏入塾決定し、野々内同道にて先生御宅へ御挨拶に参上す。

十月十日 研究会、午前九時

出席者 野々内、小野、室田、増田、加藤、上田、松井、野原

当日、幹事、帰省の為欠席、斉藤警防団の集合の為、作品のみ加藤に宅す。

作品、出席者全員出品す。野原(水無瀬神社)、野々内(日吉神社・平安神社)、斉藤(白峯神社)、増田(松尾神社)、室田(湊川神社)、上田(多賀神社)、小野(平野神社)。各自先生より御懇切なる御批評を仰ぐ。献納作品以外に加藤(森)の出品有り。未成作品並びに二枚目の作品出品者にして未成の者は来る廿日迄に即ち全作品を完成して置く事に決定。表装は展覧会迄に随意時、完成しておく事。来る十月廿一日より卅日迄、中村塾及び石崎塾十名にて画家聯盟技術奉仕員として三重航空隊へ行く事に決定、右に関する事項に付、野々内より画家聯盟に行き、種々談合する事に決定す。十二時散会。

十月十三日 画家聯盟奉仕隊員、中村塾出頭者は野々内・鍛冶・加藤・斉藤・野原の五名に決定、各自に通知、顔合せ並びに打合せ会は来る十五日午後一時、画家聯盟事務所にて決行の由。

十月十五日 午後一時、出席者 野々内、斉藤、加藤三名のみ。加藤より打合せ時項を欠席者に伝達す。

斉藤(あぢさひ)、加藤(森)、美術館、京都在住作家作品展に出品す。

十月廿一日 午前七時半、画家聯盟技術奉仕班は京都駅に出席す。先生御病気の故を以て御奥様には態々早朝より御見送り有り。一同恐縮す。十月卅一日

群の要望に答へ一日間延期し、全員無事帰京す。隊長(責任者)野々内、御礼御挨拶並びに報告の為、先生御宅へ参上す。先生には新聞

社と御打合せの結果、神社奉納展は来春早々を期し、展観と決定す。先生には今年度文展中止に変わる戦時美術展覧会(資格者は文展特選・無鑑査以上)御出品の為、当分、研究会延期となる。

十一月一日 さきに開催せられたる軍人援護展出品の加藤作(祈願)は来る三日より幻燈映写の予定と美報より通知あり。先生へ報告、美報へ礼状を出す。

十一月廿日 京都画家聯盟勤勞奉国隊では稲刈奉仕する事となり、中村塾より斉藤出席す。

十一月廿五日 全奉国隊では防空<sup>[防空協力]</sup>を掘る為、中村塾より鍛冶・野々内出席し、奉仕す。

十一月廿八日 昭和十五年夏、叡山ホテルへ作品を貸与せる塾員へ都ホテル新社長中居篤次郎氏より案内あり、出席者は先生始め田中、久山、由里本、加藤の諸氏なり。午後四時會合。

「十二月四日条は貼紙補訂」

十二月四日 新春、京都靈山護国神社を先生を始めとし塾員全部合作し、奉納する事に決定す。先生には幹事鍛冶氏をともし、謹しみて全神社に参拝遊さる。

十二月六日 午後六時より先生御宅にて塾緊急會合を行ふ。神社謹写制作奉納及展覧会に関する主要事項を打合す。愈々来る一月四日より大丸にて展観と決定、塾員一枚づ、色紙を執筆し、来る十三日に持参する事となる。尚、当日、【○】勤写作品全部、先生宅へ持参の事。野原、熱田神宮勤写と決定。加藤、石清水八幡宮勤写と決定。来る廿日迄に完成の事。

十二月七日 朝日新聞本紙に奉納展の記事記載あり。尚、十三日にも掲載す。

十二月十三日 朝十時、幹事・副幹事と共に西山・中村先生御宅へ事始めの御挨拶に参上す。午後十二時、研究会。神社全作品持参の予定なりし処、午後一時警報発令の為、延期す。神社奉納に関する贈答用色紙(塾員揮毫)持参の分、先生御宅へ御保管を願ふ。

出席者 鍛冶(一点)、加藤(二点)、増田(一点)、斎藤(二点)、室田(二点)

欠席者として作品呈出の分 野々内（二点）、小野（二点）

十二月十七日 画家聯盟勤労報隊定期出勤の件に付、幹事鍛冶代表として美統へ出席し、種々協議す。

十二月廿四日 夕六時、鍛冶・加藤・野々内・小野・斎藤出席。先生御宅にて神社奉納展の件に付、種々協議す。

名称 大東亜戦争必勝祈願 神宮並二官幣社奉献日本画展覧会  
主催 中村大三郎画塾 後援 朝日新聞社

大政翼賛会京都府支部

京都 廿年一月四日より十四日迄

大阪・神戸の会期は廿七日、野々内・小野、大阪朝日新聞社へ行き決定。

廿六日は野々内・斎藤同道にて京都大丸・大政翼賛会京都府支部・朝日新聞京都支部・久邇宮家へ行く事。加藤は廿七日朝、先生御作品並二塾員色紙を先生御宅より預り、京都駅の野々内・小野両氏へ届ける事等決定す。午後十時散会。

十二月廿六日 野々内・斎藤は午前九時より久邇宮家・大政翼賛会京都府支部・朝日新聞京都府支部・大丸へ挨拶の為、参上す。

十二月廿七日 午前、加藤、先生御宅へ参上。先生御作品・塾員色紙等御預りし、京都駅にて野々内・小野両氏と落ち会ふ。午後二時大阪の朝日新聞社本社並二松坂屋へ野々内・小野両氏挨拶に行き、大阪松坂屋開期は一月廿三日より廿八日迄、神戸大丸開期は一月卅日より二月四日迄と確定す。夜六時半より先生御宅にて奉納展に関する総会あり。

出席者 鍛冶・室田・斎藤・上田・松井・小野・野原・加藤・野々内・久邇宮家へ献納の色紙十二月を一枚づ、揮毫し、一月一日持参の事。奉納作品は卅一日、大丸七階へ搬入の事。但し陳列は三日、先生御指導の下に行ふ。例年の通り一月元旦午後一時より新年会を行ふ。尚、来年度よりの新役員、正式決定す。

幹事 野々内保太郎

副幹事 室田秀太郎

会計 斎藤紫山

研究会係 加藤美代三

十二月廿九日 午後六時、塾員、野々内宅参集。神宮並二官幣社其他へ案内状執筆。

出席者 野々内・鍛冶・小野・室田・加藤

十二月卅日 案内状完成。先生御宅へ野々内参上。御一覽に供し役函す。  
野々内、大阪新聞社京都支局・同盟通信社京都支局・大毎京都支局・大丸宣伝部等に行く。

十二月卅一日 野々内、京都新聞社・放送局等に行く。